日本福祉大学社会福祉学部
『日本福祉大学社会福祉論集』第 145 号　2021 年 9 月

社会資源開発の学びに関する考察

―― 社会福祉士養成テキストの教授方法の視点から ――

末　永　和　也

要　旨

社会福祉士・精神保健福祉士養成課程における教育内容等の見直しが進められ，社会資源開発をどう教えるかということが重要となる．本研究は，社会資源とソーシャルワーカーの実践プロセスで使用される方法（アセスメント・ネットワーキング・プランニング・コンサルテーション・エバリュエーション）が，福祉事典や社会福祉士養成テキストの教授方法を整理し，社会資源開発の学びについて考察することを目的とした．その結果は，①社会資源の定義や内容を共通化し，開発の議論をおこなっておく必要があること，②ソーシャルワーカーの実践プロセスを一体的に学習できる方法を検討することの 2 点が明らかとなった．

キーワード：社会資源開発，地域福祉教育，社会福祉士養成テキスト，
地域福祉の理論と方法，相談援助演習

1．はじめに

社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会（2018）は，『ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に求められる役割等について』で，地域共生社会の実現に向けた社会福祉士のソーシャルワーク機能として社会資源開発をあげており，社会福祉士は実践能力を身につけることが求められている．その後，厚生労働省では，社会福祉士・精神保健福祉士養成課程における教育内容等の見直しが進められ，社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室（2020）では，社会福祉士養成課程のカリキュラム改正をおこない，ソーシャルワーク演習（専門）で地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し，社会資源の活用・調整・開発について実技指導をおこなうこととしている．

「コミュニティに強いソーシャルワーカーを養成する研修」（コソ研）では，研修プログラムの単元 5 に「ソーシャルサポートネットワークと社会資源の開発」を位置づけている．単元の目標の一つとして，地域について，複合的な課題（複合化）と地域住民の協働（協働化）の視点か

ら，具体的なネットワークと社会資源開発の留意点について学ぶことになっている．つまり，コミュニティに強いソーシャルワーカーとは，社会資源に限っていえば，「地域の社会資源（社会資源には自分自身も含む）を活用できる．地域の福祉力を高め（地域エンパワメント），創り出していく（開発）ことができる.」ことであるとしている（一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟，2019）．このような動きをみても，地域を基盤としたソーシャルワーカーを養成していくなかでソーシャルワーク機能として社会資源開発を学ぶことが必要である．

日本地域福祉学会では『地域福祉の学びをデザインする』で「社会資源開発」を取り上げており，地域福祉はあらゆる既存の社会資源を活用して支援をおこなっていくが，制度の狭間の問題等において既存の制度やサービスでは対応できない場合には，常に社会資源を開発して支援を行う視点が必要である．ソーシャルワーカーが身につけるべき視点として，既存の制度やサービスを結びつけることのみが支援ではなく，必要な社会資源がなければ常に新しい社会資源開発をおこなう視点を理解することを教授内容の目標として示している（中島，2016：240-245）．地域福祉教育のあり方研究プロジェクト「協働に向けた社会資源開発のアプローチ」（藤井博志代表：以下，研究プロジェクト）[1] では，地域福祉を理解していくうえで，もっとも象徴的かつ必要性の高い「社会資源開発」を取り上げ，かつ「協同」に向けた地域づくりを意図して検討を進めている（日本地域福祉学会，2019）．研究プロジェクトでも，ソーシャルワーカーが身につけるべき視点として社会資源開発をあげており，地域福祉を理解していくうえで不可欠である．社会資源開発を理解していくためには「社会資源とは何か」を理解しなければならず，社会資源について理解することは必要であろう．しかし，社会資源については，一致した定義はなく，論者により多義的に使用し，社会福祉士養成テキストにも影響していることが考えられる．社会福祉士・精神保健福祉士養成課程における教育内容等の見直しが進められたなかで，社会資源開発をどう教えるかということは重要であろう．また，研究プロジェクトでは，「協同による社会資源開発」として演習単元のモデル化を試みており，ソーシャルワーカーの実践プロセスを「地域に入る段階→住民が組織を立ち上げることを支援する段階（立ち上げ支援）→その組織の運営を支援する段階（組織運営支援）→その組織の諸活動によるコミュニティの変革を支援する段階」の4段階にわけ，そこで使用される主な方法として，「アセスメント（観察・分析，判断）」，「ネットワーキング（協同の場づくり）」，「プランニング（企画支援）」，「コンサルテーション（組織運営支援）」，「エバリュエーション（評価）」の5つの方法を位置づけている．この5つの方法を個別バラバラに学習するのではなく，開発実践のプロセスとその構造の要素として理解することが方法論の実践的理解につながるとしている（日本地域福祉学会，2019：21）．

本研究では，研究プロジェクトの議論をふまえ，社会資源や5つの方法が，福祉事典や社会福祉士養成テキストの教授方法を整理し，社会資源開発の学びについて考察していくことを目的とする．

2．社会資源開発に関する先行研究

社会資源開発に関する先行研究は，領域を問わず存在する．地域福祉領域に限らず，社会資源開発という言葉で使用されていた．

先行研究を整理していくにあたり，研究プロジェクトの社会資源開発の考え方を参考に論じていきたい．地域を基盤とした地域福祉における社会資源は，ある特定のニーズに対応するだけでなく，地域にあるあらゆるものが福祉化され，すべての人々が社会に参加できるための資源となるという視点が最も重要である．この社会資源を社会参加資源としている．すなわち，地域福祉の視点からアプローチする社会資源開発は「まちの福祉化による社会参加資源の開発」としている（日本地域福祉学会，2019：13）．

さて，先行研究では，高藤真弓ら（2012）は，ケアマネジメントにおけるネットワークの意義を検討していくなかで，新たな社会資源を開発していくための足掛かりであり，さらに実践や研究を継続していくための動機づけになることを述べている．尾上浩二（2002）は，障害者ケアマネジメントの理念として社会資源の開発が，支援費制度の運用のなかで活かされることの期待が述べられている．福富昌城（2001：24-29）は，障害者ケアマネジメントにおける社会資源開発の重要性について指摘しており，個々の事例への対応から生まれた既存の枠を超えた資源の使い方，あるいは新しい社会資源の開発過程を，地域のネットワークのなかでシステム化していくように発展させていければ，社会資源開発の取り組み自体が地域ケアシステムのなかに位置づけていくことになることを述べている．栗田修司（1995）は，精神保健領域で，精神医学ソーシャルワーカーがケースマネージメントの技法を展開する可能性について検討していくなかで，精神医学ソーシャルワーカーがケースマネージメントの視点を取り入れつつも，社会資源開発の視点を堅持する必要があることを述べている．これらの先行研究では，ケアマネジメントの視点から社会資源開発の重要性について述べられている．

前田佳宏（2018）は，社会福祉法人の市町村レベルの協議体の活動を概観することで，自立相談支援機関が受け止めた既存制度で解決が難しい問題について，社会福祉法人の協議体が自立相談支援機関との連携によって社会資源を開発して対応していることを述べている．横山裕(2010)は，学校支援士という学校ボランティアの社会資源開発の目的は，学校の機能を十分に発揮できるように校内マンパワー不足を解消することによってさらに問題行動の未然防止を進めることを述べている．これらの先行研究では，社会資源開発をすることによって，問題に対して，対応することあるいは防止することが述べられている．

島村聡（2003）は，実際に開発された社会資源を紹介しながら，ケアマネジャーが動員した人的ネットワーク，モノ，財源，情報源について説明し，社会資源の開発パターンについて示している．また，島村（2002）は，社会資源の開発には 4 つのパターンがあり，①まったく新しい制度をつくること（知的障害者のガイドヘルパー制度を始める等），②既存の制度を改善すること

（身体障害者のヘルパーの派遣時間を増やす等），③新たな民間の取り組みをつくること（法人独自で介護人の派遣登録を始める等），④これまでの民間の事業を見直すこと（精神障害者の地域生活支援センターが事業の幅を拡げて，他の障害者を積極的に受け入れる等）を述べている．

原田正樹（2013：4-7）は，コミュニティソーシャルワーク実践の特徴を考えたときに，社会資源開発が不可欠であり，社会資源の開発を積極的にするということは，地域福祉を推進することにほかならないと述べている．

海外論文の先行研究では，社会資源開発（Social resource development）を強調した先行研究は皆無である．「開発」に目をむければ，ソーシャルワークのなかではソーシャルアクション（Social action）が教えられてきた．Mattocks（2018）は，学校でソーシャルアクションの重要性を強調し，準備することが述べられ，Ewart（1991）は，ソーシャルアクションは社会的エンパワメントと個人的エンパワメントの関係を明確にし，自己変化の段階を説明するのに役立つことが述べられている．

いずれの先行研究も，社会資源開発の重要性に触れていくなかで「ネットワーク，制度，ボランティア，機関，モノ，財源，情報源」について述べている．地域を基盤としたソーシャルワーク機能を理解していくうえで重要な視点といえよう．しかしながら，社会資源開発の内容に触れたものが少ないのが現状である．社会資源開発という用語は使用していても，内容や学びについては触れられていなかった．著者によって社会資源開発の用語が共通した認識のもとに使用されているのだろうか．本研究では，社会福祉士を目指す学生が使用する福祉事典や社会福祉士養成テキストを分析する．

3．研究方法

(1) 方法

本研究は，福祉事典と主要な出版社 7 社（中央法規出版，弘文堂，ミネルヴァ書房，社会福祉法人全国社会福祉協議会，みらい，久美，学文社）の社会福祉士養成テキスト（地域福祉の理論と方法，相談援助演習）を分析する．社会福祉士養成テキストを分析する視点は，講義，演習，実習のそれぞれの講義でどう教えているか確認するため，『地域福祉の理論と方法』『相談援助演習』のテキストに絞っている．索引から用語を検索し，「社会資源」と「アセスメント」「ネットワーキング」「プランニング」「コンサルテーション」「エバリュエーション」の 5 つの方法がどのように取り上げられているのか用語を整理することで分析をおこなった．つまり，社会資源開発が社会福祉士養成テキストから学びにつながるのか明らかにすることができると考える．なお，社会資源開発に関する整理も必要であるが，社会資源の活用という文脈で書かれた文献が多く，社会資源開発について書かれたテキストが少ないのが理由である．

(2) 倫理的配慮

社会福祉士養成テキストに関しては，社会資源の本文や定義の分析が本研究の目的であるため,「日本地域福祉学会研究倫理規程」を遵守し，著者は明記しないこととした.

4．研究結果

(1) 福祉事典における社会資源

各福祉事典に記載されている社会資源について整理したものが表１である．空閑浩人，三浦文夫，小笠原慶彰が社会資源について定義していた.

空閑浩人は,「人々が社会生活を営むうえで，必要に応じて活用できるさまざまな法制度やサービス，施設や機関，人材，知識や技術などの総称である.」と定義している.

三浦文夫は,「ソーシャル・ニーズを充足するために動員される施設・設備，資金や物資，さらに集団や個人の有する知識や技能を総称していう.」と定義している.

小笠原慶彰は,「福祉ニーズの充足のために利用・動員される施設・設備，資金・物品，諸制度，技能，知識，人・集団などの有形，無形のハードウェアおよびソフトウェアを総称していう.」と定義している.

表１　社会資源（福祉事典）

タイトル	出版社	発行年	執筆者	本文・定義	ページ数
新版　地域福祉事典	中央法規出版	1997 年　初版 2006 年　新版	市川一宏	この地域の関係性をコミュニティづくりに活かすために，それぞれの地域の人材，施設，機関，サービス等の既存の地域の社会資源の可能性と課題を検討し，かつ潜在的な資源を開拓することが大切である.	158
			福富昌城	ケアプランに位置づけられる社会資源には，①フォーマルな資源（一定の手続きと受給要件を満たしていれば誰でも利用できる，社会的に用意されたサービス),②インフォーマルな資源（利用者との間の私的な人間関係を通して援助関係が結ばれ，援助が提供されるもの）がある．また，③利用者自身の力（内的資源）も重要である.	420
社会福祉学事典	丸善出版	2014 年	空閑浩人	社会資源とは，人々が社会生活を営むうえで，必要に応じて活用できるさまざまな法制度やサービス，施設や機関，人材，知識や技術などの総称である.	208

現代社会福祉事典	社会福祉法人全国社会福祉協議会	1982 年　初版 1988 年　新版	三浦文夫	ソーシャル・ニーズを充足するために動員される施設・設備，資金や物資，さらに集団や個人の有する知識や技能を総称していう．ケースワーク，グループワーク，コミュニティ・オーガニゼーションの過程で，ソーシャル・ワーカーは，ニーズを明確にするとともに，迅速かつ効果的に社会資源の動員を図らなければならない．社会資源は，その質量や形態によって接近性，即応性，効果性が問われるので，つねに整備・維持が図られなければならない．	225
現代福祉学レキシコン	雄山閣出版	1993 年　初版 1998 年　第 2 版	小笠原慶彰	一般的には，社会システムを維持し，存続し，発展させるために個人や集団の欲求を充足するのに必要な資源のことであるが，特に社会福祉資源という場合には，福祉ニーズの充足のために利用・動員される施設・設備，資金・物品，諸制度，技能，知識，人・集団などの有形，無形のハードウェアおよびソフトウェアを総称していう．	164

(2) 社会福祉士養成テキストにおける社会資源

各出版社の社会福祉士養成テキストに記載されている社会資源について整理したものが表 2 である．『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック⑥相談援助演習』（ミネルヴァ書房）以外は，索引に社会資源に関する用語の記載があった．

社会資源について本文や定義を確認すると，福祉事典に記載のあった小笠原慶彰や三浦文夫の引用がみられた．社会資源の定義が論者によって多義的に用いられる傾向にあることや社会資源の定義は諸説あるため，社会資源の構造の捉え方も複数存在することが本文に書かれているものもあった．出版社ごとに社会資源に関する定義や内容は異なっていた．

『地域福祉の理論と方法』のテキストでは，「フォーマル・インフォーマルな社会資源が存在する」（中央法規出版），「地域における自立生活を可能にするさまざまなサポート」（弘文堂），「社会的ニーズを充足するさまざまな物資や人材などの総称」（ミネルヴァ書房），「有形無形のハードウェア及びソフトウェアの総称」（社会福祉法人全国社会福祉協議会），「ソーシャル・ニーズを充足するために動員される施設・整備，資金や物資，さらに集団や個人の有する知識や技能を総称」（みらい），「福祉サービスの提供に必要な人材や資金，施設，政策，情報，制度」（久美），「社会福祉サービスを利用する人びとの生活上のニーズを充たすために活用できる種々の制度，政策，施設，法律，人材などのこと」（学文社）と記載されていた．

『相談援助演習』のテキストでは，「困難な状況におかれているクライエントのニーズを充足す

るために動員されるサービスや制度，施設，設備，資金や物資，個人や組織が有する知識や技能などを含む概念」（中央法規出版），「クライエントのニーズ充足のために活用される物的・人的資源を総称したもの」（弘文堂）と記載されていた．

本文や定義を分類すると，主に「ニーズの充足」「有形無形のハードウェア及びソフトウェア」の 2 つの共通点があった．相違点としては，「ニーズの充足」では，社会的，福祉的，クライエントからニーズ充足する視点であった．「有形無形のハードウェア及びソフトウェア」では，施設・設備，資金・物品，諸制度，技能，知識，人・集団などが述べられているが，社会資源の本文や定義のなかに技能や知識が含まれていないものもあり，出版社によって異なっていた．

出版社にもよるが，『地域福祉の理論と方法』では，社会資源の内容や特徴の理解を図り，社会資源の開発と活用のあり方について理解できる文章や事例で本文が構成され，『相談援助演習』では，ワークシートを活用し事例に取り組むことで理解できるよう本文が構成されているものもあった．

表 2　社会資源（社会福祉士養成テキスト）

タイトル	出版社	発行年	本文・定義	ページ数
新・社会福祉士養成講座 9 地域福祉の理論と方法 第 3 版	中央法規出版	2009 年　初版 2015 年　第 3 版	**社会資源**には，第一にフォーマル（制度的）な社会資源が存在する．制度的社会資源は，法律や制度に基づき，あらかじめ定められた特定の対象に対して，一定の手続きと要件を満たすことによって利用可能となっている．その一方，インフォーマル（非制度的）な社会資源は，特に法律や制度に基づかない民間組織や地域住民の自由意思を基盤に提供されるものである．	214
地域福祉の理論と方法［第 3 版］―地域福祉 【社会福祉士シリーズ 9】	弘文堂	2008 年　初版 2017 年　第 3 版	そしてその地域における自立生活を可能にするさまざまなサポートのことを「**社会資源**」と呼ぶ．地域に住む一人ひとりの自立生活を成り立たせるには，地域住民の生活上のニーズを充足させる「**社会資源**」が存在することが必要である．	144
MINERVA 社会福祉士養成テキストブック⑧ 地域福祉の理論と方法［第 2 版］	ミネルヴァ書房	2010 年　初版 2014 年　第 2 版	**社会資源** 社会的ニーズを充足するさまざまな物資や人材などの総称を指す．社会福祉領域においては，社会福祉施設，備品，サービス，資金，制度，情報，知識・技能，人材，拠点などが挙げられる．地域を基盤としたソーシャルワーク実践において，地域のニーズに即した各種の**社会資源**を改善・開発する機能が求められる．	18
社会福祉学習双書 2018 第 8 巻　地域福祉論 地域福祉の理論と方法	社会福祉法人全国社会福祉協議会	2009 年　初版 2018 年　第 9 版	社会福祉における**社会資源**は「ニーズを充足するために用いられる有形，無形の資源（resource）」であり，「福祉ニーズの充足のために，利用・動員される施設・設備，資金・物品，諸制度，技能，知識，人・集団などの有形，無形のハードウェア及びソフトウェア」と定義されている（引用元：小笠原慶彰）．ただし，	229

			社会資源についての一致した定義はなく，論者によって多義的に用いられる傾向にあるため，ここでは，地域福祉推進における社会資源を地域という場で地域住民が自分らしく暮らしていけるための「ニーズ」を充足する「有形無形のハードウェア及びソフトウェアの総称」と考えておくことにする．	
新・社会福祉士養成課程対応 地域福祉の理論と方法［第 2 版］	みらい	2009 年　初版 2014 年　第 2 版	三浦文夫は，**社会資源**について「ソーシャル・ニーズを充足するために動員される施設・整備，資金や物資，さらに集団や個人の有する知識や技能を総称していう」としている．つまり，福祉ニーズを充足するために活用されるあらゆるものが**社会資源**であり，そのとらえ方は私たちの日常生活を支える多様な要素が含まれている．	153
現代の社会福祉士養成シリーズ ［新カリキュラム対応］ 第 2 版　地域福祉の理論と方法	久美	2011 年　第 2 版	**社会資源** 福祉サービスの提供に必要な人材や資金，施設，政策，情報，制度．	16
イントロダクションシリーズ 10 地域福祉の理論と方法	学文社	2013 年　第 1 版	**社会資源** 社会福祉サービスを利用する人びとの生活上のニーズを充たすために活用できる種々の制度，政策，施設，法律，人材などのこと．	19
			社会資源とは，「福祉的サービスを利用する人びとの生活上のニーズを充たすために活用できる種々の制度，政策，施設，法律，人材」であるとされており，クライエントの生活ニーズを支援していくものとして，多岐にとらえられている．しかし，**社会資源**に関する定義には諸説あるため，社会資源の構造のとらえ方も複数存在する．	100
社会福祉士　相談援助演習　第 2 版	中央法規出版	2009 年　初版 2015 年　第 2 版	**社会資源**とは，困難な状況におかれているクライエントのニーズを充足するために動員されるサービスや制度，施設，設備，資金や物資，個人や組織が有する知識や技能などを含む概念である．	43
相談援助演習［第 3 版］―ソーシャルワーク演習 【社会福祉士シリーズ 21】	弘文堂	2008 年　初版 2018 年　第 3 版	**社会資源** クライエントのニーズ充足のために活用される物的・人的資源を総称したもの．	56
			社会資源 social resources 福祉ニーズを充足するために活用される施設・機関，個人・集団，資金などの総称．	67
			ところで，地域社会（コミュニティ）に生じた問題を解決するために助けになり，活用できるもののことを「**社会資源**」という．	107
			社会資源とは，現代福祉学レキシコンによると「一般的には社会システムを維持し，存続し，発展させるために個人や集	127

			団の欲求を充足するのに必要な資源のことであるが，特に社会福祉資源という場合には，福祉ニーズの充足のための利用・動員される施設・設備，資金・物品，諸制度，技能，知識，人・集団などの有形・無形のハードウェアおよびソフトウェアの総称」と定義されている（引用元：小笠原慶彰）.	
MINERVA 社会福祉士養成テキストブック⑥ 相談援助演習	ミネルヴァ書房	2015 年　初版	※索引に用語の掲載なし	

(3) 社会福祉士養成テキストにおける 5 つの方法（アセスメント・ネットワーキング・プランニング・コンサルテーション・エバリュエーション）

各出版社の社会福祉士養成テキストに記載されている「アセスメント」「ネットワーキング」「プランニング」「コンサルテーション」「エバリュエーション」について整理したものが表 3 ～表 7 である.

1）アセスメント

「アセスメント」については，個別支援，地域支援，コミュニティソーシャルワーク，ソーシャルサポートネットワーク，ケアマネジメント，ジェネラリスト・ソーシャルワークなど，それぞれの視点から解説されていた.

表 3　アセスメント

タイトル	出版社	発行年	本文・定義	ページ数
新・社会福祉士養成講座 9 地域福祉の理論と方法 第 3 版	中央法規出版	2009 年　初版 2015 年　第 3 版	※索引に用語の掲載なし	
地域福祉の理論と方法［第 3 版］―地域福祉【社会福祉士シリーズ 9】	弘文堂	2008 年　初版 2017 年　第 3 版	社会資源は地域住民の生活ニーズの充足のために存在する．したがって，まずはその住民のニーズを的確に**アセスメント**することが必要である．**アセスメント**には地域住民の個別ニーズ，地域のニーズ，地域の特性の把握も含まれる．	148
MINERVA 社会福祉士養成テキストブック⑧ 地域福祉の理論と方法［第 2 版］	ミネルヴァ書房	2010 年　初版 2014 年　第 2 版	個別課題アセスメントと地域アセスメントをふまえたうえで**アセスメント**の統合が重要となる．これらにより自らが対応する個別課題が地域において共通性を有するものなのか検証を行い，アプローチの方向性を見いだしていくことになる．	168
社会福祉学習双書 2018 第 8 巻　地域福祉論 地域福祉の理論と方法	社会福祉法人全国社会福祉協議会	2009 年　初版 2018 年　第 9 版	同様のニーズが地域にあるという予測のもと地域ニーズを**アセスメント**（地域診断）し，ニーズを集約した上で，地域ぐるみでの対応の仕組みづくり（地域支援）に取り組むことになる．	12

			コミュニティソーシャルワークの視点として，第一に，利用者の個別性を尊重し，利用者の地域における自立生活支援のために，利用者と家族の関係性，地域の生活環境との関係という全体的（ホリスティック）な視点に立って**アセスメント**を行うということが重要になってくる．	188
			「個別支援」とは文字どおり，一人ひとりが抱える個別の課題解決に向け，ニーズのキャッチ，分析，**アセスメント**，サービスプランニング，サービス提供，モニタリング，などのプロセス，つまりケアマネジメントのプロセスを通し，具体的なケアを提供することによって，問題解決のための支援をすることであり，その人なりの生活を組み立てて継続していくことを個々に支援していくことである．	279
新・社会福祉士養成課程対応 地域福祉の理論と方法［第 2 版］	みらい	2009 年　初版 2014 年　第 2 版	利用者に社会資源をつなげるために，ICF（国際生活機能分類）の視点から利用者と家族の現状（利用者の身体機能［健康状態・日常生活行動］や心理的状況，生活歴，社会的役割［仕事の有無等］，性格特性［趣味・特技等］，居住生活環境と家族関係や経済的状況，交友関係や近隣等との社会環境状況，サービス利用状況等）と生活上の思いや希望の**アセスメント**情報をふまえ，利用者とともにニーズを正確に把握し，どのような社会資源が活用できるか検討していく．	160
現代の社会福祉士養成シリーズ ［新カリキュラム対応］ 第 2 版　地域福祉の理論と方法	久美	2011 年　第 2 版	介護支援専門員（ケアマネジャー）は，居宅介護支援事業所や地域包括支援センター，各種施設（介護老人福祉施設等）に所属し，介護保険において「要支援」，あるいは「要介護」と認定された者に対し，**アセスメント**にもとづいたケアプランを作成し，ケアマネジメントを行う者である．	139
イントロダクションシリーズ 10 地域福祉の理論と方法	学文社	2013 年　第 1 版	ソーシャルサポートネットワークは，支援の具体的な実践方法について示すというよりも，エコマップを使用した**アセスメント**を行うなど，クライエントの評価を実施する際に有用となる枠組みとしての性格が大きい．	95
			ニーズ把握と**アセスメント**は，援助を成就させるうえでの最初の肝要なプロセスであるともいえる．	112
社会福祉士　相談援助演習　第 2 版	中央法規出版	2009 年　初版 2015 年　第 2 版	どのレベルの実践においても課題や状況について理解するためには，情報を適切に収集し分析するアセスメント・スキルが必要である．**アセスメント**のためには，コミュニケーションスキルとともに，理論やモデルを応用して必要な情報を判断し，分析できなければならない．	13

			ソーシャルワーク実践では，どのような観点から**アセスメント**をするのかということは極めて重要な課題である．なぜなら，**アセスメント**の内容が支援の内容を規定するためである．	36
			ワーカーとクライエントの協働による援助関係が開始されると，その次の段階としては，さまざまな情報収集とそれに基づいた分析（**アセスメント**）や事前評価を行う局面が続くことになる．	76
相談援助演習［第3版］―ソーシャルワーク演習 【社会福祉士シリーズ21】	弘文堂	2008年　初版 2018年　第3版	インテークによる初期アセスメントをもとに，相談者とその環境のストレングスをも含めたフルアセスメント（包括的アセスメント）を行う．	89
			ケアマネジメントにおける**アセスメント**は，「利用者の身体機能的状況」「精神心理的状況」「社会環境的状況」に焦点化している．そして，この3つの項目からクライエントの生活上の問題を明確にし，生活ニーズを明らかにしていく．	111
			ジェネラリスト・ソーシャルワークにおける**アセスメント**とは，開始の段階から始まる客観的事実や主観的事実に関する情報の収集と，それに基づいたニーズの確定までのプロセスである．	230
MINERVA社会福祉士養成テキストブック⑥ 相談援助演習	ミネルヴァ書房	2015年　初版	ソーシャルワーカーはクライエントの生活の中で何が起きているのかを，**アセスメント**を通じて理解しようとし，どのように支援するのかを明らかにしていく．	99

2）ネットワーキング

「ネットワーキング」については，『地域福祉の理論と方法』にテキストに取り上げられていないものもみられた．『相談援助演習』のテキストでは，ネットワーキングの過程や方法についての解説がみられた．

表4　ネットワーキング

タイトル	出版社	発行年	本文・定義	ページ数
新・社会福祉士養成講座9 地域福祉の理論と方法 第3版	中央法規出版	2009年　初版 2015年　第3版	※索引に用語の掲載なし	
地域福祉の理論と方法［第3版］―地域福祉 【社会福祉士シリーズ9】	弘文堂	2008年　初版 2017年　第3版	**ネットワーキング** ［networking］ 1970年代後半から網の目のように，横にゆるやかなつながりを作るという新しいかたちの地域活動や社会運動が広がりを始めた．既存の枠組みを越え，平等・複合・分散型の組織形態を指す言葉として使用され，これまで対立してきた異質なもの同士の共存を意味する理念として，さらにはそれを超えて相互の交流，協力による積極的な関係を構築することを指す．	257-258

MINERVA社会福祉士養成テキストブック⑧ 地域福祉の理論と方法［第2版］	ミネルヴァ書房	2010年　初版 2014年　第2版	サービス・ネットワークの形成や連絡調整，**ネットワーキング**などさまざまな表現がされてきたが，社会福祉における「全体性の原則」とも言い換えることができる．	115
社会福祉学習双書2018 第8巻　地域福祉論 地域福祉の理論と方法	社会福祉法人全国社会福祉協議会	2009年　初版 2018年　第9版	サービスネットワークの形成とか連絡調整とか**ネットワーキング**とか，さまざまな表現がされてきたが，社会福祉における「全体性の原則」とも言い換えられる．	23
新・社会福祉士養成課程対応 地域福祉の理論と方法［第2版］	みらい	2009年　初版 2014年　第2版	※索引に用語の掲載なし	
現代の社会福祉士養成シリーズ ［新カリキュラム対応］ 第2版　地域福祉の理論と方法	久美	2011年　第2版	※索引に用語の掲載なし	
イントロダクションシリーズ10 地域福祉の理論と方法	学文社	2013年　第1版	※索引に用語の掲載なし	
社会福祉士　相談援助演習　第2版	中央法規出版	2009年　初版 2015年　第2版	**ネットワーキング**とは，「新しい何かのあり方を求めて，個々の違いを認めつつ，予定調和的なつながりを排した，多様化と多元化を促進する極めて動態的なつながりづくりの過程」である（引用元：藤井博志）．	148
相談援助演習［第3版］―ソーシャルワーク演習 【社会福祉士シリーズ21】	弘文堂	2008年　初版 2018年　第3版	**ネットワーキング** ネットワークから**ネットワーキング**への発展過程は，点から線へ，線から面へと発展していく．すなわち，点としての活動体，線としての活動体，面としての活動体を経て，それぞれが主体性をもつ立体的・有機的な活動体への**ネットワーキング**としてのステップがある．	202
MINERVA社会福祉士養成テキストブック⑥ 相談援助演習	ミネルヴァ書房	2015年　初版	ネットワークとは，個人や組織においてコミュニケーションが有機的に機能する網目状につながった社会的な関係性を示す．そして，**ネットワーキング**とは，そのような関係性を意図的に作り出す方法を指す．	141

3）プランニング

「プランニング」については，『地域福祉の理論と方法』ではあまり取り上げられていなかった．『相談援助演習』では「アセスメント」「プランニング」に関して，ケアマネジメントの展開プロセスのなかで記載されているものが多く，具体的な事例もまじえながら解説がされていた．

表5　プランニング

タイトル	出版社	発行年	本文・定義	ページ数
新・社会福祉士養成講座9 地域福祉の理論と方法 第3版	中央法規出版	2009年　初版 2015年　第3版	※索引に用語の掲載なし	
地域福祉の理論と方法［第3版］―地域福祉 【社会福祉士シリーズ9】	弘文堂	2008年　初版 2017年　第3版	※索引に用語の掲載なし	
MINERVA社会福祉士養成テキストブック⑧ 地域福祉の理論と方法［第2版］	ミネルヴァ書房	2010年　初版 2014年　第2版	プランニングでは，要援護者に対する個別支援と地域に対するアプローチを結びつけるプランニングが求められる．	168
社会福祉学習双書2018 第8巻　地域福祉論 地域福祉の理論と方法	社会福祉法人全国社会福祉協議会	2009年　初版 2018年　第9版	※索引に用語の掲載なし	
新・社会福祉士養成課程対応 地域福祉の理論と方法［第2版］	みらい	2009年　初版 2014年　第2版	プランを立てる際に大切なことは，利用者の思いと希望を受けとめ，「こんなふうに生活したい」という支援目標の設定である．そして達成するために必要な方法を検討し，利用者と関係者と合意形成を図る．	162
現代の社会福祉士養成シリーズ ［新カリキュラム対応］ 第2版　地域福祉の理論と方法	久美	2011年　第2版	※索引に用語の掲載なし	
イントロダクションシリーズ10 地域福祉の理論と方法	学文社	2013年　第1版	※索引に用語の掲載なし	
社会福祉士　相談援助演習　第2版	中央法規出版	2009年　初版 2015年　第2版	福利（ウェルビーイング）増進につながるような目標設定やプランニングのためには，ソーシャルワークの価値・倫理を踏まえ，理論・モデルを活用したアセスメントに基づき，信頼関係に裏付けられたコミュニケーションを通して当事者間で協働，交渉，調整するといった総合的なスキルが求められる．	13
相談援助演習［第3版］―ソーシャルワーク演習 【社会福祉士シリーズ21】	弘文堂	2008年　初版 2018年　第3版	支援の計画づくりである．相談者にとって望ましい結果は何か，求められる状況の変化は何かを検討し，目標を設定する．また，目標達成のために必要なこと，それを妨げる要因を踏まえて，実施すべきこと，実施する者（相談者，支援者），実施の優先順位，実施の時期などを具体的に設定する．	89
MINERVA社会福祉士養成テキストブック⑥ 相談援助演習	ミネルヴァ書房	2015年　初版	支援目標が設定されれば，支援計画の作成に入る．支援計画とは，支援目標（大きな目標）を幾つかの中目標，小目標に分割し，それぞれに対してどんな支援をどのように行うのか定めるものである．	120

4）コンサルテーション

「コンサルテーション」については，『地域福祉の理論と方法』『相談援助演習』のテキストでは取り上げられていなかった．

表6　コンサルテーション

タイトル	出版社	発行年	本文・定義	ページ数
新・社会福祉士養成講座9 地域福祉の理論と方法 第3版	中央法規出版	2009年　初版 2015年　第3版	※索引に用語の掲載なし	
地域福祉の理論と方法［第3版］―地域福祉 【社会福祉士シリーズ9】	弘文堂	2008年　初版 2017年　第3版	※索引に用語の掲載なし	
MINERVA社会福祉士養成テキストブック⑧ 地域福祉の理論と方法［第2版］	ミネルヴァ書房	2010年　初版 2014年　第2版	※索引に用語の掲載なし	
社会福祉学習双書2018 第8巻　地域福祉論 地域福祉の理論と方法	社会福祉法人全国社会福祉協議会	2009年　初版 2018年　第9版	※索引に用語の掲載なし	
新・社会福祉士養成課程対応 地域福祉の理論と方法［第2版］	みらい	2009年　初版 2014年　第2版	※索引に用語の掲載なし	
現代の社会福祉士養成シリーズ ［新カリキュラム対応］ 第2版　地域福祉の理論と方法	久美	2011年　第2版	※索引に用語の掲載なし	
イントロダクションシリーズ10 地域福祉の理論と方法	学文社	2013年　第1版	※索引に用語の掲載なし	
社会福祉士　相談援助演習　第2版	中央法規出版	2009年　初版 2015年　第2版	※索引に用語の掲載なし	
相談援助演習［第3版］―ソーシャルワーク演習 【社会福祉士シリーズ21】	弘文堂	2008年　初版 2018年　第3版	**コンサルテーション**とは，業務遂行上，ある特定の専門的な領域の知識や技術について助言を得る必要がある時，その領域の専門家（コンサルタント）と相談，助言を受けることである．	220-221
MINERVA社会福祉士養成テキストブック⑥ 相談援助演習	ミネルヴァ書房	2015年　初版	※索引に用語の掲載なし	

5）エバリュエーション

「エバリュエーション」については，「コンサルテーション」と同様に取り上げられていなかった．「評価」として記載しているテキストもみられたが，ケアマネジメントの展開プロセスのな

かでの解説であった．

表7　エバリュエーション

タイトル	出版社	発行年	本文・定義	ページ数
新・社会福祉士養成講座9 地域福祉の理論と方法 第3版	中央法規出版	2009年　初版 2015年　第3版	※索引に用語の掲載なし	
地域福祉の理論と方法［第3版］―地域福祉 【社会福祉士シリーズ9】	弘文堂	2008年　初版 2017年　第3版	※索引に用語の掲載なし	
MINERVA社会福祉士養成テキストブック⑧ 地域福祉の理論と方法［第2版］	ミネルヴァ書房	2010年　初版 2014年　第2版	※索引に用語の掲載なし	
社会福祉学習双書2018 第8巻　地域福祉論 地域福祉の理論と方法	社会福祉法人全国社会福祉協議会	2009年　初版 2018年　第9版	※索引に用語の掲載なし	
新・社会福祉士養成課程対応 地域福祉の理論と方法［第2版］	みらい	2009年　初版 2014年　第2版	※索引に用語の掲載なし	
現代の社会福祉士養成シリーズ ［新カリキュラム対応］ 第2版　地域福祉の理論と方法	久美	2011年　第2版	※索引に用語の掲載なし	
イントロダクションシリーズ10 地域福祉の理論と方法	学文社	2013年　第1版	※索引に用語の掲載なし	
社会福祉士　相談援助演習　第2版	中央法規出版	2009年　初版 2015年　第2版	※索引に用語の掲載なし	
相談援助演習［第3版］―ソーシャルワーク演習 【社会福祉士シリーズ21】	弘文堂	2008年　初版 2018年　第3版	その目的に対して，結果はどうであったのか，また援助方法は適切であったかなどを分析・考察することが必要となり，**エバリュエーション**と呼ばれている事後評価などがこれにあたる．	76
MINERVA社会福祉士養成テキストブック⑥ 相談援助演習	ミネルヴァ書房	2015年　初版	※索引に用語の掲載なし	

5．考察

本研究では，社会資源について福祉事典と社会福祉士養成テキストを参考に5つの方法について整理した．社会資源の定義が論者により多義的に用いられていることや，構造の捉え方も複数存在していた．このことをふまえながら，社会資源開発の学びについて考えていきたい．

(1) 著者や出版社ごとの社会資源に関する解釈や認識の違い

社会資源の定義について，「ニーズの充足」「有形無形のハードウェア及びソフトウェア」が共通点としてみられたが，それぞれの視点で解釈や認識の違いがみられた．

「ニーズの充足」では，社会的，福祉的，クライエントでニーズを充足する視点が異なっていた．これは，社会資源の捉え方が関係するのではないだろうか．「社会資源を区分する際に，フォーマル（公的），ノンフォーマル（共助），インフォーマル（自助）といった機能が大切である．」（日本地域福祉学会，2019：3）ことが述べられており，どの視点でニーズを充足するのかによって異なるであろう．それぞれの区分する対象によって，社会的，福祉的，クライエントといった基準となる視点も異なると考える．

「有形無形のハードウェア及びソフトウェア」では，施設・設備，資金・物品，諸制度，技能，知識，人・集団などの視点で述べられていたが，相違点は，技能や知識も含まれる点である．地域資源について，市川一宏（2014：80）は，「『人』（当事者，住民，ボランティア，専門職，保健医療福祉等に関わる広い人材），『もの』（地域型コミュニティ組織，市民型アソシエーション，保健・医療・福祉・教育・公民館等の施設，サービス・活動，住民関係，地域関係，ネットワーク），『金』（補助金，寄付金，収益），『とき』（就業時間，ボランティアが活動する時間等），『知らせ』（資源情報，サービス利用者情報等）である．」と定義している．技能や知識については，地域資源には含まれていなかった．福祉事典では，空閑，三浦，小笠原の定義に技能や知識は含まれていたが，社会福祉士養成テキストでは，技能や知識が含まれていないものもあった．この違いは，「人」のとらえ方が明確にされていないことから生じている．地域住民のとらえ方も，「個人」に目をむけるか，それとも「個人の持っている技能や知識」に目をむけるかで異なってくる．地域共生社会を実現していくためには，地域のあらゆる住民が役割を持ち，自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成していかなければならない．そのためには，社会資源の定義や内容について解説していくうえで，地域住民がもつ技能や知識まで触れておく必要がある．

『地域福祉の理論と方法』では，社会資源の内容や特徴の理解を図り，社会資源の開発と活用のあり方について理解できる文章や事例で本文が構成されていた．出版社ごとに社会資源の定義や内容が異なれば，社会福祉士の間でも社会資源について解釈や認識の違いが生じることが懸念される．著者や出版社ごとに差をなくすためにも，社会資源に含まれる，物的資源，人的資源，文化的資源，資金についての定義や内容を共通化しておく必要があると考える．社会資源が多義的に用いられており，資源の活用の議論にとどまり，開発の議論とまでなっていないことが指摘できる．

このことから，社会資源開発を学ぶためには，社会資源の定義や内容を共通化し，開発の議論をおこなう必要がある．日本地域福祉学会を中心に議論していくことや学術論文などで研究成果を蓄積していくことが重要になると考える．

(2) 社会福祉士養成テキストでの学習方法

社会福祉士養成テキストの出版社ごとに，社会資源についての定義や内容が異なっているという結果であった．

地域福祉教育研究会（原田正樹研究代表）では，『地域福祉の理論と方法』がどのように教授されているのかについて現状を把握するために全国調査をおこなっている．授業で市販のテキストを使用している割合は 8 割近い（77.9%）データが示されていた（小野，2016：44-55）．福祉系大学が『地域福祉の理論と方法』のテキストを使用するなかで，社会資源の定義や内容が出版社ごとに異なるということは，教員ごとに教育方法が異なることも考えられる．そのため先述したように，社会資源の定義や内容を共通化し，開発の議論をおこなう必要があると考える．

また，社会資源開発の内容に触れた先行研究が少ない現状にあり，さまざまな解釈や認識で使用されている可能性もある．『地域福祉の理論と方法』『相談援助演習』のテキストでは，ケアマネジメントの展開プロセスに関しては一体的に学ぶことができるが，個別に取り上げられているものも多く，「コンサルテーション」「エバリュエーション」については取り上げられていなかった．厚生労働省『地域福祉の理論と方法』のシラバスには，地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法およびその実際について理解することがねらいであったことからも，「コンサルテーション」まで取り上げられていなかったと考える．「エバリュエーション」は，ケアマネジメントの展開プロセスの一部として取り上げられていた．このことから，ソーシャルワーカーの実践プロセスを一体的に学習できる方法を検討する必要があると考える．社会資源開発を学ぶプロセスとして「アセスメント」「ネットワーキング」「プランニング」「コンサルテーション」「エバリュエーション」を個別バラバラに学ぶのではなく，一体的に学ぶことである．項目ごとに用語の意味や内容を丁寧に学ぶことは当然必要であるが，項目間のつながりや実践プロセスを学習することが，地域を基盤としたソーシャルワーカー養成には必要であろう．社会福祉士養成テキストから社会資源開発を学び，ソーシャルワーク実践していくことのイメージを持てるよう教授してくことが重要であると考える．

6．おわりに

本研究では，社会資源開発の学びについて，社会資源の定義や内容を共通化し，開発の議論をおこなっておく必要があること，ソーシャルワーカーの実践プロセスを一体的に学習できる方法を検討することの 2 点が明らかとなった．

地域を基盤としたソーシャルワーカーを養成していくためには，社会資源について正しく理解し，資源開発について具体的にイメージできていることが重要である．社会福祉士養成テキストを編集する各出版社は，2 点のポイントを踏まえ工夫していくことが必要である．

社会福祉士だけでなく精神保健福祉士を目指す学生も含めて，社会福祉士養成テキストが講義や演習で使用されるだけでなく，現場のソーシャルワーカーがスーパービジョンを受けるさいの

ツールとしても活用できるであろう．

今後の課題としては，社会資源開発を身につけるための演習授業の内容や演習教材の開発，さらには，講義，演習，実習を一体的に通して学ぶことのできる教育環境について検討していきたい．講義形式では，社会福祉士養成テキストから社会資源の定義や内容と，「アセスメント」「ネットワーキング」「プランニング」「コンサルテーション」「エバリュエーション」の 5 つの方法を丁寧に学習し，それぞれの定義を正しく理解する．演習形式では，この 5 つの方法ごとに完結するのではなく，一体的に学ぶことで，ソーシャルワーカーの実践プロセスとして学習する．実習形式では，講義や演習で学習したことを確認する機会として有効であろう．それぞれの形式で，ソーシャルワーカーの実践プロセスが一体的に学習できる方法を検討していくことが必要ではないかと考える．

注

1）本研究は，日本地域福祉学会地域福祉教育のあり方研究プロジェクト（藤井博志代表）の一環として，筆者が担当した「社会資源開発をめぐる用語の整理」を加筆修正したものである．

引用文献

Ewart, 1991, Social action theory for a public health psychology. 46（9）：931-946.

福祉臨床シリーズ編集委員会編（2017）『地域福祉の理論と方法［第 3 版］―地域福祉【社会福祉士シリーズ 9】弘文堂.

福祉臨床シリーズ編集委員会編（2018）『相談援助演習［第 3 版］―ソーシャルワーク演習【社会福祉士シリーズ 21】弘文堂.

福富昌城（2001）「第 1 章　障害者保健福祉の動向とケアマネジメント」社団法人日本社会福祉士会編『障害者ケアマネジメントのための社会資源開発』中央法規出版.

原田正樹（2013）「第 I 部　社会資源開発が求められる背景とコミュニティソーシャルワークの機能」コミュニティソーシャルワーク実践研究会編『コミュニティソーシャルワークと社会資源開発―コミュニティソーシャルワーカーからのメッセージ』全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）.

長谷川匡俊・上野谷加代子・白澤政和・ほか編（2015）『社会福祉士　相談援助演習　第 2 版』中央法規出版.

市川一宏・大橋謙策・牧里毎治編（2014）『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック⑧　地域福祉の理論と方法［第 2 版］』ミネルヴァ書房.

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（2019）『地域共生社会の創造に向けたコミュニティソーシャルワーカー養成研修の基盤構築事業報告書＜平成 30 年度　赤い羽根福祉基金助成事業＞』.

川村匡由・石田路子編（2011）『現代の社会福祉士養成シリーズ［新カリキュラム対応］　第 2 版　地域福祉の理論と方法』久美.

栗田修司（1995）「精神保健領域でのケースマネージメントの現状と課題―米国における精神分析病者に対する処遇の特徴考察から」『日本保健福祉学会誌』2（1）：53-62.

前田佳宏（2018）「自立相談支援機関と社会福祉法人の連携による社会資源開発について―市町村レベルの社会福祉法人協議体における活動を事例に（特集　社会福祉法人の地域公益活動とコミュニティソーシャルワーク実践）」『コミュニティソーシャルワーク』21：41-46.

Mattocks, 2018, Social Action among Social Work Practitioners: Examining the Micro-Macro Divide. 63（1）：7-16.

中村優一・ほか編（1988）『現代社会福祉事典』全国社会福祉協議会.

中島修（2016）「30　社会資源開発／ソーシャルアクション」上野谷加代子・原田正樹編『地域福祉の学びをデザインする』有斐閣.
成清美治・川島典子編（2013）『イントロダクションシリーズ 10　地域福祉の理論と方法』学文社.
日本社会福祉学会事典編集委員会編（2014）『社会福祉学事典』丸善出版.
日本地域福祉学会編（2006）『新版　地域福祉事典』中央法規出版.
日本地域福祉学会地域福祉教育のあり方研究プロジェクト（2019）『協同による社会資源開発のアプローチ』.
小田兼三・ほか編（1993）『現代福祉学レキシコン』雄山閣出版.
小野達也（2016）「3『地域福祉の理論と方法』講義の現状と課題」上野谷加代子・原田正樹編『地域福祉の学びをデザインする』有斐閣.
尾上浩二（2002）「自立支援のマネジメント実践　当事者ニードは社会資源開発の力」『月刊福祉』85（8）：84-87.
島村聡（2002）「障害者ケアマネジメントを考える　（9）障害者ケアマネジメントと社会資源開発」『ケアマネジャー』4（5）：62-64.
島村聡（2003）「PART-5　障害者分野の社会資源開発（特集　社会資源―こうすればうまく付き合える）」『ケアマネジャー』5（2）：27-29.
白澤政和・福富昌城・牧里毎治・ほか編（2015）『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック⑥　相談援助演習』ミネルヴァ書房.
社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室（2020）『社会福祉士養成課程のカリキュラム（令和元年度改正）』.
『社会福祉学習双書』編集委員会編（2018）『社会福祉学習双書 2018　第 8 巻　地域福祉論　地域福祉の理論と方法』社会福祉法人　全国社会福祉協議会.
社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・社会福祉士養成講座 9　地域福祉の理論と方法　第 3 版』中央法規出版.
社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会（2018）『ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に求められる役割等について』.
高藤真弓・野中猛（2012）「ケアマネジメントにおけるネットワーキングの意義―研究会方式による実践事例を通して」『日本福祉大学社会福祉論集』126：15-33.
坪井真・木下聖編（2014）『新・社会福祉士養成課程対応　地域福祉の理論と方法［第 2 版］』みらい.
横山裕（2010）「地方都市におけるスクールソーシャルワークの現状と今後の展開について」『九州保健福祉大学研究紀要』11：43-52.